

内外情勢

- ・ 宗教改革による国内対立
- ・ 外国勢力との対立や戦争



「主権」 (sovereignty)

ボダンJean Bodin (1530-1596)

対内的絶対性と対外的自立性

⇒政治思想の課題：

“誰が主権者になるべきなのか？”

社会契約説 (social contract)

- ・ 社会は、自由な市民が相互に結ぶ契約によって成立する。
- ・ 支配者が正統性を持つのは、社会からの要請に応える場合のみ。



自由な市民の自発的意思によって、
統治 = 共同体は成立する。

⇒ **主権者は市民**〔自由の第1概念〕

ポスト市民革命の政治思想

自由主義 (Liberalism)

- ①君主に対する警戒 → 市民革命
- ②絶対的な権力全体に対する警戒
絶対的な権力を市民が握った場合、
市民も警戒の対象となる。
(19世紀 トクヴィル、ミル)

③危害原理 (harm principle)

J.S.ミル

人間に干渉できるのは、その人間が
他人に危害を加える場合のみ。



誰からも干渉されず、自分の考えや
行動を妨げられない

〔自由の第2概念〕

社会問題（貧困）の発生

① 社会主義・共産主義

資本主義の抑制もしくは否定

② 修正資本主義・福祉国家

資本主義を前提として、部分的に
修正・改善を目指す

⇒ 健康で、文化的な生を送ることが
可能な状態 〔自由の第3概念〕

西洋政治思想における「自由」

- ① **積極的自由 (positive freedom)**
政治や社会に積極的に参加すること。
- ② **消極的自由 (negative freedom)**
誰からも干渉されず、自分の考えや行動が妨げられないこと。
- ③ **社会権的自由**
健康で、文化的な生活を送ることが可能な状態。